

6年生が、巣立ちました。それぞれに、新しい学年に向かって・・・

少し暖かくなったと思ったら、水曜日に雪がちらついて驚きました。今日は日差しが暖かく、春の訪れを感じる日となりました。

3月17日、6年生105名が附属小学校を卒業しました。厳粛な雰囲気の中、名前を呼ばれた子供たちは、凜とした姿勢で返事をし、卒業証書を受け取りました。卒業生を見ていると、学校生活での様々な場面を思い出し、胸にこみあげてくるものがありました。運動会、奈良での校外学習、修学旅行、音楽会等の学校行事、日常生活でのリーダーとしての活躍、どの場面を思い出しても、子供たちの笑顔が思い浮かびます。決して楽しいことや嬉しいことばかりではなく、辛いことや悲しいこともあったことと思います。小学校生活での全ての経験をこれからの人生の糧として、活躍してくれることを期待しています。

本年度の卒業式は、5年生の子供たちが出席しました。リーダー引き継ぎ式（ゆめタイム、ファミリー活動等、学校のリーダーとしての役割を引き継ぐ式）で、6年生からバトンを受け取った5年生。心がこもった卒業式準備、5年生合奏団による入場曲や退場曲の演奏、式中のきりっとした姿、てきぱきと働く後片付け、最高学年としての自覚が芽生え始めている姿が見られ、たいへん頼もしく感じました。附属小学校の伝統が引き継がれていくことを心強く思いました。



そして、本日の修了式。今の学年として登校する日は、今日が最後になりました。修了式が始まると、子供たちの姿勢がよくなり、視線が話す人に集まりました。節目をしっかりと意識した態度で参加していました。修了式では、修了証書の授与、校長先生のお話、代表の子供たちの話、生徒指導からの1年の振り返りと評価がありました。代表の子供たちの話から、様々な経験をとおして学んでくれたことがわかりました。

保護者の皆様には、本年度も本校の学校教育にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。至らない点多々あり、ご心配をかけてしまったこともありました。それでも、子供たちのために、ご支援を続けていただきありがとうございました。この1年間をとおして、対話をする事の大切さを改めて感じました。子供たちとも保護者の皆様とも、対話をする事で気持ちをわかりあえたと感じています。考えたり感じたりすることを言葉で表現すること、自分の気持ちを伝えることは難しいです。しかし、言葉でしか本当の気持ちは伝わりません。本日の修了式で代表の5年生が、「人と人が繋がるためには、相手をおもいやる気持ちが大事」と話してくれました。このことを肝に銘じて、人との繋がりを大事にしていきたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

(文責 齋藤 昌代)